紀南河川国道事務所

奥瀞道路Ⅱ期 27年度完成

山間部に美しいハイピア橋

玉置口第一、第二が最盛期

国土交通省・紀南河川国道事務所が和歌山県新宮市熊野川町と奈良県十津川村を横断する国道169号線のバイパスとして建設を進めている奥瀞道路Ⅱ期（全体事業費139億円、延長5・2キロ、2車線）の玉置口第一橋、玉置口第二橋、玉置口第三橋が工事最盛期を迎えている。

第一橋は玉置川を渡河する橋長261㍍のPC3径間連続ラーメン箱桁橋。第二橋は平谷川と国道169号を跨ぐ橋長142㍍のPC2径間連続ラーメン箱桁橋。第三橋は49㍍のPC単純箱桁橋。第一橋と第二橋はともに幅員7㍍、下部工は約50㌧級のハイピア、形式は逆T式橋台、柱式橋脚。現在、第一橋は川田・佐藤JVにより、下部工と上部工張り出し架設が同時に施工中。第二橋は下部工が終わり、銭高組により上部工張り出し施工中。第三橋は工程調整中、施工はドーピー建設工業。

このうち、玉置口第二橋は施工場所が谷部で河川を跨いで施工ヤードに進入しなければならないため、河川に仮橋等による施工ヤードを確保しながら、資材、施工機械等の配置について十分検討した上で施工をしなければならなかった。また、第二橋のA2橋台は急峻な山に計画されており設置位置までの進入路がなく、モノレールを設置して作業員の移動手段とし、資材についてはケーブルクレーンを設置したという。

3橋は奥熊野地域の住民に開通を切望されている奥瀞道路とともに、平成27年度の完成を目指している。

（北澤宏美）

張出し架設中の玉置口第一橋

上部工が進む玉置口第二橋

小さな光がともる　ブラスト施工マニュアル作成の担い手になるか

会長に小寺氏　ブラスト関連十数社で結成

建設的な意見が数多く出た

塗装・ブラスト関連の十数社は8日、東京都中央区の会議室で第2回目の会議を開催し、参加した十数社の賛同を得て「ブラスト施工技術研究会」を発足させた。

初代の会長には、極東メタリコン工業（兵庫県宝塚市）の小寺健史専務が就いた。小寺会長は「若輩者だが、皆さんの御協力のもと、ブラスト技術の地位向上に向けて全力で取り組んでいく」と抱負を述べた。事務局は当面、池田工業に置くことになった。

研究会の運営方針などについては意見が百出したため、今後さらに議論を深めていくことで合意し、散会した。

同日、承認された役員は次の通り（敬称略）。▽会長　小寺健史▽副会長　山田翔平（山田塗装・愛知県東海市）▽会計　渡辺勇樹（渡辺塗装工業・福島県いわき市）▽事務局長　池田龍哉（池田工業・北海道北斗市）▽理事　河原淳人（山川産業・兵庫県尼崎市）、竹之下博美（竹之下・北九州市若松区）、吉原慎二（吉原鉄工所・広島県尾道市）

解説　鋼橋はじめ鋼構造物の耐久性を左右する、その根幹とも言える素地調整の技術。この技術研究会がひっそりと産声をあげた。道路管理者や設計コンサルは塗装・素地調整に関して知らない部分が多く、実際の現場では健全性判断、防食設計、塗装系の適用方法が悩みの一つだったとも言える。研究会が一つの工法に偏った形ではなく、広く技術を網羅してデータに基づく指針づくりの裏方になれるのであれば、その存在価値、重要度は大きいと言えるだろう。その意味において、誠に小さな産声かも知れないが、後人から8日が、歴史的な第一歩を記した日だったと言われる日であることを願いたい。小紙は「小さな光がともった」と表現する。（阿部清司）

江東区

平野橋、上部工と橋台建設

橋梁長寿命化で架替え

江東区土木部は橋梁長寿命化修繕計画に基づき平野橋の架け替えを計画、橋台の建設と共に上部工の架設に着手した。

同橋は江東区木場2丁目～1丁目間の大横川に架かる橋梁。

現橋は橋長15㍍、全幅10・2㍍（車道6㍍、歩道1・5㍍＋1・5㍍）の単径間鋼製ガーダー橋、新平野橋は橋長13・2㍍、全幅12・8㍍（車道7㍍、歩道2・5㍍＋2・5㍍）合成床版橋梁となる。現橋より最大39㌢程度下がる予定。

平野橋は昭和25年に架設され同36年に東京都から江東区に移管され、架橋後60年余りが経過する。江東区の地域防災計画では「緊急道路障害物除去路線」に指定されており、また橋梁点検を実施し、老朽化、劣化が各所に見られた。この架け替えにより道路橋示方書（平成14年3月版）の要求する耐震性能にも合致するもので、通常の生活道路としての安全性、利便性向上と共に災害時の緊急輸送道路としての役割を担う。

工事は、その1工事で旧橋撤去、地盤改良工、橋台構築工を新日本・黒部JV、その2工事で取付け道路工事を含め上部工製作・架設を矢田工業が担当。工期は平成25年10月～27年3月末。

（川村淳一）

架け替え中の平野橋

経団連会館で懇親会

日本能率協会

日本能率協会グループ（中村正己理事長）は4日、経団連会館で毎年恒例となった記者懇親会を開催した。中村理事長は一年の感謝の言葉を述べるとともに「2013年『JMAアジア共・進化センター』を立ち上げ、アジアでの日本企業のビジネスをサポートしてきた」と実績を語るとともに、今後のシンガポールとの協力関係について、展望を示した。

コンクリート橋の耐震補強に画期的新製品

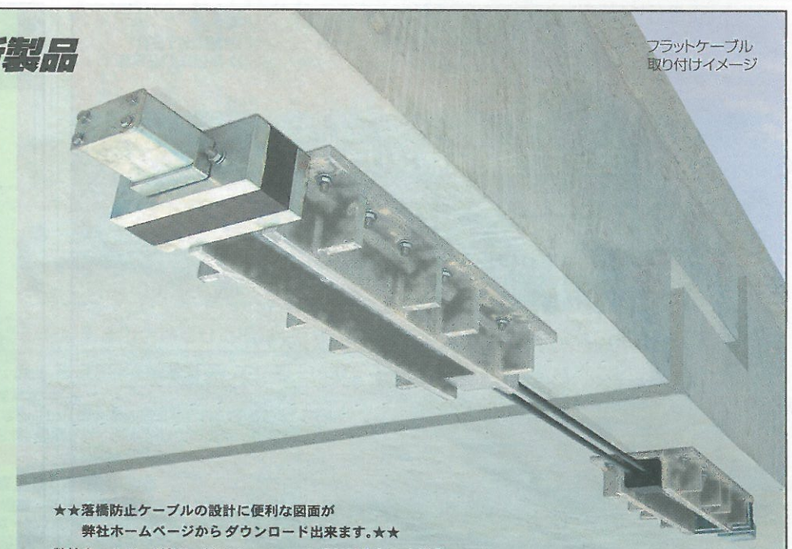
新型落橋防止「フラットケーブル」

- 橋梁（斜張橋、吊橋、アーチ橋）用ケーブル
- 海洋構造物用ケーブル
- 張力測定装置内蔵型ケーブル
- 橋梁端支点対策ケーブル
- 渦流探傷による腐食調査と新型テープ巻き補修
- 簡易型回転機構付き落橋防止ケーブル
- 人道吊橋用完全防食型ケーブル

従来からの様々な構造ケーブルや
落橋防止ケーブルも御相談ください。

神鋼鋼線工業株式会社

本社及び工場　尼崎市中浜町10番地1
〒660-0091 電話(06)6411-1081
東京支店　東京都品川区北品川 5丁目9番12号
〒141-8688 電話(03)5739-5256
大阪支店　大阪市中央区北浜2丁目6番地18号
〒541-0041 電話(06)6223-0674
九州支店　電話（092）441－5998
札幌営業所　電話（011）221－2732


フラットケーブル
取り付けイメージ

★★落橋防止ケーブルの設計に便利な図面が
弊社ホームページからダウンロード出来ます。★★
弊社ホームページ(http://shinko-wire.co.jp/)にアクセスください。
ホームページ＞事業・製品案内＞エンジニアリング事業　エンジニアリング＞落橋防止ケーブル＞ダウンロード